

岩沼市民バス運行業務評価（概要）

1. 利用状況（令和3年4月～令和4年3月）

- 市民バス：121,111人（前年度より3,189人の増加）
年間の1便あたりの平均利用者数5.3人
- デマンド：西部区域 1,080人（前年度より270人の増加）
東部区域 1,282人（前年度より149人の減少）
- 復興路線：矢野目線 65人（前年度より45人の増加）
新浜線 283人（前年度より160人の減少）

2. 評価

【目標値】

指標の背景	評価指標	現状（R3年度）	目標値（R3年度）
高齢者にやさしく 利用しやすい バス交通	市民バスおよびデマ ンド交通の年間利用者数 【年間の1便あたりの 平均利用者数】	12.1万人 【5.3人】	16.0万人 【7.3人】

【見直しの評価基準】

- 各路線の見直し：年間の1便あたりの平均利用者数 4人/便
- 運行経費と運賃収入等の差額：年間約7,500万円
- バス全体の運行見直し：運行経費と運賃収入等の差額が過度に増加すると見込まれる場合

【評価・今後の改善等】

- 現在の運行体系（2つの循環線と5つの支線への整理）については、例年の利用状況から一定の定着が図られていることが確認できますが、令和2年度からは、新型コロナウイルス感染症による影響が大きく、利用が減少したことを鑑みると、見直し等を行う場合には同じ利用実績値でも例年のような考え方と同じ参考数値として安易に使用することは難しいと考えます。
- 例年の実績を踏まえて、各路線の大きな課題の抽出や分析を行い、市民の需要に合った路線網を検討する必要があると考えます。
- また、通学の利用者を支えている「大師線」および「南長谷線」については、利用状況に応じた運行経路の見直しや、スクールバスとの住み分け、車両の大きさについて検討の余地があると考えます。
- 運行経費と運賃収入等の差額については、バス業界全体が慢性的な運転士不足に陥っていることから、安全面の確保から今後も運行経費の上昇は避けられない状況にあります。一方で路線網の整理に伴う運行経費の削減や運賃の見直し等を検討することで、縮減を図れる余地があると考えます。

- デマンドタクシーについては、運行当初に想定した利用に達していない状況であることから、今後も継続した利用状況・需要の把握など検証を行い、大きな見直しに向けて課題の抽出を行う必要があると考えます。
- 震災復興路線については「矢野目線」の利用が極端に少なく、「新浜線」も乗降位置や乗車時刻が市民バス路線の「玉浦循環線」路線上に近いため、地域との交流を図り、今後バス路線とともに改善や検討が必要と考えます。
- デマンドタクシーおよび震災復興路線の運行見直しについては、運行事業者との協議調整を行いながら、市民バスを含めた交通体系全体で検討していく必要があると考えます。
- 令和3年度はAIを活用した「岩沼AI運行バス」の実証実験を行った。岩沼「AI運行バス」は路線や運行ダイヤなどは存在せず、人工知能が利用者の予約状況に応じてリアルタイムで最適な運行ルートを作成し、目的地の降車ポイントまで走行するというものであり、利用者からは好評であったことから、今後のバス運行体系を考える上で、検証や検討を進める必要があると考えます。
- 今回の様々な評価及び評価に基づく改善等については、現在、行っている岩沼市民バス運行計画の見直しの中で考えていく必要があると考えます。